



# 次期総合計画策定はどのように進めるか

佐藤 信男議員

持続可能なまちづくりを図るものが必要  
市長



▲計画的に進めている佐屋駅周辺整備

**問** 第2次愛西市総合計画の後期基本計画に掲げられた重点プロジェクトを中心とした成果は。

**答** 「子育ての輪」プロジェクトでは、妊娠・出産から子育てまで、切れ目のない支援を行うため、市単独事業で、18歳年度末までの子ども医療費の無償化の実現、1歳児子育て応援給付金の支給開始、保育園等副食費や小学校給食費の一部助成の継続、今年度からは市立中学校の給食費無償化を

実現し、子育てに係る経済的な負担軽減を図っている。「コンパクトで快適」集約型まちづくりプロジェクトでは、新規企業誘致のため、佐屋地区工業団地を県企業庁と連携し整備を進めている。また、名鉄藤浪駅前の再整備、佐屋駅周辺の整備、鉄道駅周辺での新たな市街地整備など、長期的・計画的なまちづくりを進めている。

**問** 愛西市総合計画の

後期基本計画期間内に生じた課題は。

**答** 全国的な傾向から、本市も人口減少、高齢化が急速に進展した。またコロナ禍に生じたDXの急速な進展、ライフスタイルや働き方に対する意識の変化、人と人との関係の希薄化など様々な課題がある。

**問** 次期総合計画の策定は現時点ではどのような思いで進めるのか。

**答** 第2次総合計画の評価・検証、市民意識調査などを踏まえ策定を進めていく。特に急激な人口減少、高齢化への対応は待ったなしの状況だ。厳しい財政状況ではあるが、新たな地域課題や多様化・複雑化するニーズに対応するには、既存の事業も含め、事業の選択と限られた財源の集中が求められており、自主財源の増加や、事業実施に当たって国・県補助金や

有利な地方債の活用をさらに徹底する必要がある。また、社会情勢や市民の意識の変化を的確に捉え、市民協働や官民連携、DXの推進、国や県との連携強化などを基礎として、人と人との絆がさらに深まる持続可能なまちづくりを図るものではないかならぬと考えている。

**問** 次期市長選に向けた市長自身の気持ちと考えは。

**答** 本市のまちづくりをどのように進めるべきかを念頭に、後援会をはじめ、意見を聞き、次期市長選への出馬については現在熟慮を重ねている。